

(質問)

「糸魚川－静岡構造線断層帯」による地震とは、どのようなものですか。

(回答)

長野県北西部から山梨県中央部にかけて走る「糸魚川－静岡構造線断層帯」において、今後数百年以内にM8程度の直下型大地震が発生する可能性が高いと評価されています。

糸魚川－静岡構造線は大きく北部（長野県北部が中心）、中部（長野県中部が中心）、南部（本県が中心）に区分されています。

このうち、北部及び中部において様々な調査が行われ結果、次のとおり評価されています。

- ①約1,200年前に北部区間から中部区間（白馬から小淵沢まで：約100km）で活動したのが最新であり、その地震の規模はM8程度であった可能性が高い。
- ②特に、牛伏寺（ごふくじ）断層（松本市付近）を含む区間では、約1000年おきに、M8程度の規模の地震が発生してきた可能性が高い。
- ③牛伏寺断層を含む区間では、現在を含めた今後数十～数百年以内に、M8程度の規模の地震の発生する可能性が極めて高い。
- ④今後30年間の発生確率は『14%』と評価され、陸上に存在する活断層による地震では、最も高い確率である。
- ⑤ただし、「牛伏寺断層を含む区間」がどこからどこまでが含まれるのかは、不明。

このような評価を受け、政府の地震調査研究推進本部では、平成14年10月、特に北部と中部の区間でM8級の地震が発生した場合の震度の予測図を作成、公表しています。

これによると、山梨県内でも震源の断層に近い峡北地方を中心に、甲府盆地の広い範囲まで、震度5強以上の揺れが発生すると予想されています。

(問い合わせ先)

連絡先 山梨県総務部消防防災課 防災対策担当
電話 055(223)1432 FAX 055(223)1439
E-Mail shobo@pref.yamanashi.jp